

# くろつち便り

内容：金曜集会／もっかい事故調／天声人語から／  
野草折々27株／互助会グラウンドゴルフ大会(2/12)  
退職者を送り励ます会(2/25)／年金0.1%引き下げ

## どうなる？

## 私たちの年金

マイナスは2014年依頼3年ぶり。16年度の消費者物価指数が下がったためという。そういうルールになっているということですが、今一、そのルールが分からない。

厚労省のホームページに、「年金額の改定については、法律上、物価変動率、名目手取り賃金変動率がともにマイナスで、名目手取り賃金変動率が物価変動率を下回る場合、年金を受給し始める際の年金額（新規裁定年金）、受給中の年金額（既裁定年金）ともに、物価変動率によって改定する

先月27日、厚労省は、2017年度の年金額を0.1%引き下げると発表しました。

こととされています。このため、平成29年度の年金額は、新規裁定年金、既裁定年金ともに、物価変動率（▲0.1%）によって改定されます。」と書いてあるけど、煙に巻かれたような感じです。文中「〇〇〇の場合」とあるが、その場合に引き下げる必然性がなぜあるのかがピンと来ないのです。

児童扶養手当や障害者に対する給付も下がるのだそうです。

高齢化社会で将来の年金支給を確保するためということ、ルールができたのは2012年でしたか。そのころから内容が分かりづらかったのですが、2021年からは、現役世代の賃金下がったときには、高齢者が受け取る年金も下がるようになるらしい。

そうならなきやいいが…。(文責 樋園)

## アオキ(ミズキ科)

### 野草折々-2-

飯山春男さんに身近な植物を紹介して頂いています。



2回目はアオキです。

枝や葉、幹までも四季を通じて青いからアオキという。青草のない時期には、牛馬の餌にしたという。

生の葉を焙って腫物にのせ包帯で軽くしばると、膿を吸いだしてくれる。(写真は2017.1.26 国見山系にて)

お話を伺うと、溪谷のこんもりとした厳しいところに一人で分け入って、途中で倒れたらと想像したら恐怖を感じたそうですが、そうやって撮ってきた写真だそうです。

## 当面の予定

- 互助会グラウンドゴルフ大会  
2月12日(日) 午後
- 退職者を送り励ます会 会費3,000円  
2月25日(土) (補助1,000円)  
大黒グランドホテル
- 次回金曜集会  
3月3日(金) 17:00～北田交差点
- 総会・歓迎会 4月?日/会場:千成

## 「元気なわたしたち」 作詞・作曲 有馬純次

知っているはずの人の名前が出てこない 夜中に突然足がツル／同窓会では病氣自慢をする 血圧・血糖値などを比べあう／アイドルの顔はどれも見分けつかない (以下略)

退女教で密かなブーム?になっている曲の冒頭です。1～3番、何れも「私たちは元気だ」で終わっています。思わず吹き出す人は、思い当たるところがある人でしょう。(作品展のDVDのバックミュージックに使いたかったけど取り止めました。)

2月3日

# 金曜集会

先ほどまで温かさを感じていたけど、日が山の端に隠れたとたん、ひんやりしてきました。



そういう中、北田交差点で、道行く人や行き交う車に向かって、シュプレヒコールの声高らかに、脱原発を訴えました。(次回は3月3日17:00~です。)

## もっかい事故調

「もっかい事故調」というのは「国会事故調」を振った言葉。意味するところは「もう一回事故調(調査委員会)」だそうです。

2月5日、川内原発即時停止を訴えて黎明館で講演会が開催されました。「も・・・事故調」のメンバー2人を含む5人の論客です。立地条件・設計・検査態勢・設計事故への対策・過酷事故対策・防災計画の6項目をいくつかの観点で「も」のメンバー7人が評

価。その平均が川内原発は5点満点中1.8。田中三彦氏(「も」座長・元国会事故調)は「事故が起こるまでは安全」と述べ、広瀬隆氏(作家)は「もう日本はふっとぶぞ」と警告。政府は「世界最高レベルの厳しい基準」と言うが欧米よりかなり甘い基準です。

## 放下著

(ほうげじゃく) -----放下着という表記もあるが<sup>したき</sup>下着とは無関係

樋園哲思  
昨年暮れ、恐らく十年ぶりぐらいに、我が狭い書齋に足の踏み場ができた。大掃除で古いレポートや書類、書籍等の束が山ほど(30個以上)できて、中には手書き時代のレポート等懐かしい物もあったが、(捨てるのは難しい物)はパソコンに取り込んだ後)全てちりに出した。禅語に「放下著(ほうげじゃく)」(何でも捨てるなさい)という言葉がある。だが自分は凡夫の身、執着心が強くてなかなかそうはいかない。惜しくて捨てられなかった物の中に、変色しかかった「天声人語」という文庫本(朝日新聞社、中古本)があった。頁を繰っていると70年ぐらい前の世相が垣間見てとれる。

題目をいくつか拾ってみる。

1945.9.6 「お茶坊主と傍観

者」…戦争中、二種類の間人がいた話。

1945.10.22 「愛林精神」…森林に依存しなくなった民族は滅ぶ。戦時中、多くの木を伐採

1946.4.7 「戦争放棄」…マ元帥「列国もこれ(日本)と志を同じくし、せつかくの日本の善意をないがしろにすべきでない」の言葉と、一方では連合軍(実質米軍)近代兵団の行進。対比的だが・・・

1946.6.17 「人類を試す原子力」

1946.7.2 「ビキニ実験」…6.17の記事と同様、これも原爆絶対反対の論調ではない。

1948.1.8 「東条サンの人気」…東条英樹陳述共鳴の気分が隠見している事への警鐘

1948.11.29 「するめ判事」…ヤミするめ事件を起こした天野判事への判決を「判事の間解放だ」と評価(前年には餓死

判事もいたが、当時は判事と雖も生きるのに必死)

拾い上げていたら切りがない。原発問題を探してみた。原子力委員会が出来たのは1956年(初代委員長正力松太郎)だから、3巻・4巻にこの問題が登場しそうだが、見あたらない。世論の関心が低かったのだろうか。(ネットによると湯川秀樹は「原発建設を急ぐことは将来に禍根を残す」と言い委員会の運営に反発、翌年委員を辞任。表向きは体調不良)

漸く登場するのが9巻1979.1.15。高浜原発2号機事故を取り上げているが、杜撰な管理を問題にしているだけである。

思いを巡らしていたら長文になっちゃったが、いくら<sup>ほうげじゃく</sup>放下著と言っても、過去の歴史の記憶は「放下著」という訳にはいかない。